



CONDUCT  
セミハイドロリックブレーキ  
取扱説明書



## 目次

重要なお知らせ .....	3
補修パーツ一覧 .....	4
必要な工具 .....	5
部品名称 .....	6
ブレーキレバー比の確認 .....	7
ブレーキレバーのリーチ調整 .....	8
キャリパーとマスターシリンダー本体の取り付け .....	10
ブレーキアウターケーブルの取り付け .....	11
油圧ブレーキホースの取り付け .....	13
インナーケーブルとマスターシリンダーの接続 .....	14
油圧ブレーキホースの長さ調整 .....	15
ブリーディング .....	16
ブレーキパッドの交換 .....	19

## 重要なお知らせ

本製品は、CONTACT SL、CONTACT、および CONNECT シリーズのジャイアント製ステムにのみ対応します。その他の対応製品は下表を参照してください。

	対応製品	
ステム	GIANT 製 CONTACT SL、CONTACT、CONNECT シリーズ	
ディスクローター	GIANT 製 CONDUCT HYDRAULIC DISC BRAKE ROTOR	
ブレーキパッド	GIANT 製 CONDUCT HYDRAULIC DISC BRAKE PAD	
オイル	TEKTRO 製 ミネラルオイル SHIMANO 製 ミネラルオイル（互換）	
シマノ STI レバー	DURA-ACE	ST-9001
	ULTEGRA	ST-6800
	105	ST-5800
	TIAGRA	ST-4700
	SORA	ST-3500
	CLARIS	ST-2400

※DURA-ACE(ST-9100)、ULTEGRA(R8000)には対応しません。

※上記以外のレバーを使用する場合は、必ずブレーキレバー比の確認(P.7)を行ってください。

**警告【重要】** レバー比の確認を行わずに、許容されないブレーキレバーとジャイアント CONDUCT セミハイドロリックブレーキシステムを使用すると、制動性能に悪影響を与え、深刻な怪我や死亡を引き起こす可能性があります。

### 警告【重要】

ジャイアントが認可しないディスクローターを組み合わせると、本セミハイドロリックブレーキシステムを使用すると、保証が無効になります。適合しないディスクローターを使用すると、制動能力が十分に発揮されない可能性があり、深刻なケガまたは死亡を引き起こす可能性があります。

### 警告【重要】

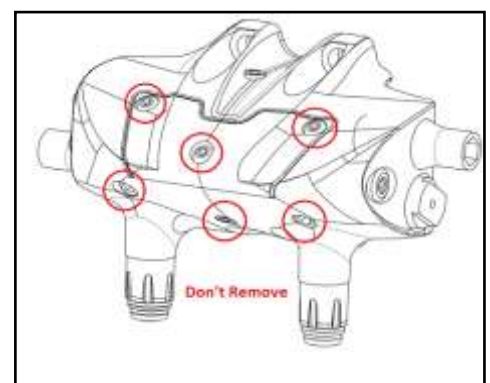
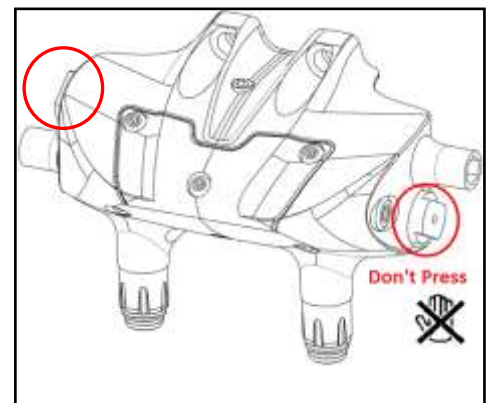
ジャイアントが推奨しないブレーキパッドを組み合わせると、保証が無効になります。

ブレーキパッド全体の厚さ（パッド部分+バックプレート）が 2.5mm 未満になった時、またはパッドの摩耗インジケーター(本書 P19)が現れた場合は、パッドを交換する必要があります。








ブレーキパッドが摩耗し、ローターと左右のブレーキパッドの隙間が均等にならない場合は、両方のパッドを交換してください。

ブレーキシステムの取り付けが完了する前に、図の丸で囲んだシリンダー一部を押さないでください。組み立て前にシリンダー一部を押すと、システムの異常を引き起こす可能性があります。

図の丸で囲んだシリンダー一部にあるボルトを外さないでください。ボルトを外すことにより、システムの異常を引き起こす可能性があります。



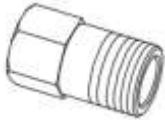




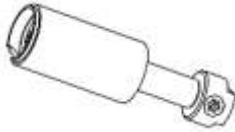


## 補修パーツ一覧


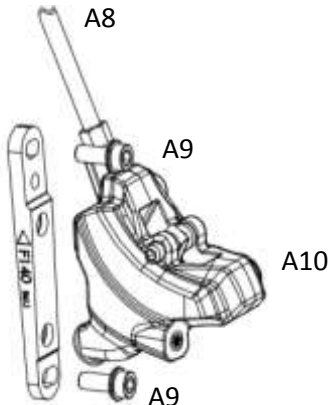
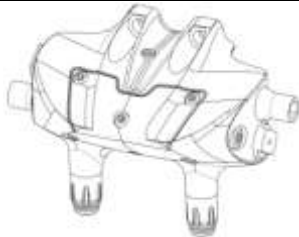


Gear SKU	品目	部品イメージ
290000031	コンダクト Conduct Disc Brakes – Body for Post mount	
290000032	コンダクト Conduct Disc Brakes – Body for Flat mount	
290000033	コンダクト Conduct Disc Brakes – rotor 140mm	
290000034	コンダクト Conduct Disc Brakes – rotor 160mm	
290000035	コンダクト Conduct Disc Brakes – Disc brake pad blue color	
370000011	コンダクト Conduct Disc Brakes – Inner cable & cable housing	
380000019	コンダクト Conduct Disc Brakes – work shop service kit < 内容物 > ブリーディングシリンジx2、シリンジホースx2、 ブリードスペーサーx2、 コネクタカバーx20、コネクタボルトx20、 コンプレッションスリーブx50、コネクタインサートx50、 ホースカッター x 1、引き代検査工具x1、M6レンチ、 インナーケーブルラバーキャップ x20	
410000086	コンダクト Conduct Disc Brakes – Computers & Gopro mount KIT	

## 必要な工具

工具		size	使用位置	締め付けトルク
六角レンチ		3 mm	ブレーキパッド固定ボルト	1.0-1.2 Nm
		4 mm	ステム固定ボルト	6 Nm
		4 mm	フラットマウントキャリパー	5-7 Nm
		5 mm	ポストマウントキャリパー	6-8 Nm
トルクスレンチ		T 15	インナーケーブル固定ボルト	4.5 Nm
		T 15	ブリードポートボルト(マスターシリンダー)	0.8-1.2 Nm
		T 15	ブリードポートボルト(キャリパー)	0.8-1.2 Nm
フレアナットレンチ		8 mm	ホースコネクティングボルト	6-8 Nm

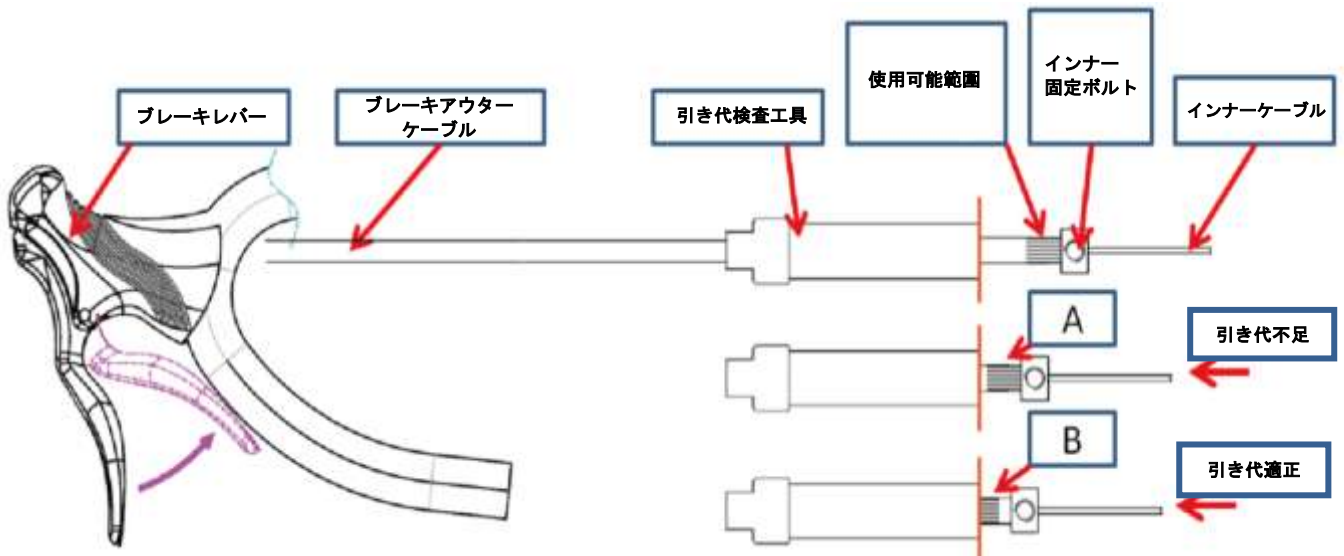
## 部品名称

No	名称	形状	No	名称	形状
A1	コネクターボルト		A5	ホースカッター	
A2	コネクターカバー		A6	ブリードスペーサー	
A3	コンプレッションスリーブ		A16	引き代検査工具	
A4	コネクターインサート		A17	インナーケーブルラバーキャップ	

No	名称	形状
A7	ブリーディング シリンジ	
A8	油圧ブレーキホース	
A9	キャリパーボルト	
A10	ブレーキキャリパー (フラット/ポストマウント) (含 M6 ボルト X4)	
A13	マスターシリンダー本体	
A14	ブレーキアウターケーブル	
A15	ブレーキインナーケーブル	

## ブレーキレバー比の確認

※GIANT 製ドロップハンドルと、本書 P3 において対応するシマノ製 STI レバーについては、以下のブレーキレバー比確認の必要はありません。



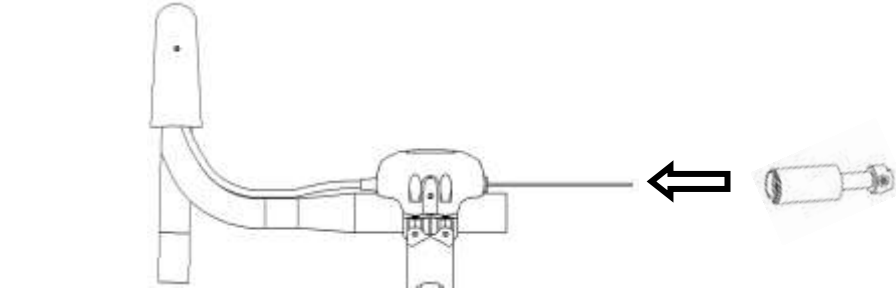
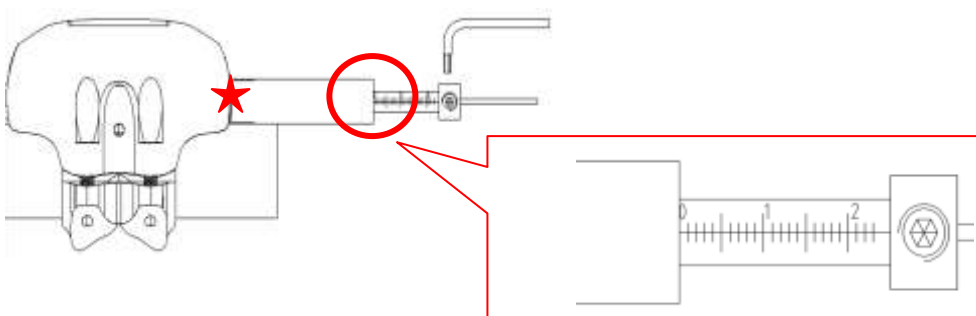
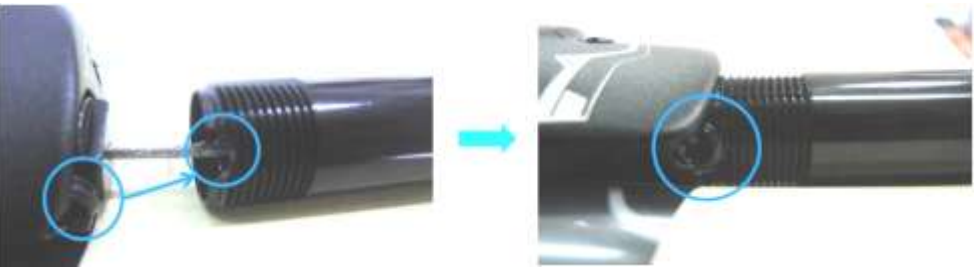
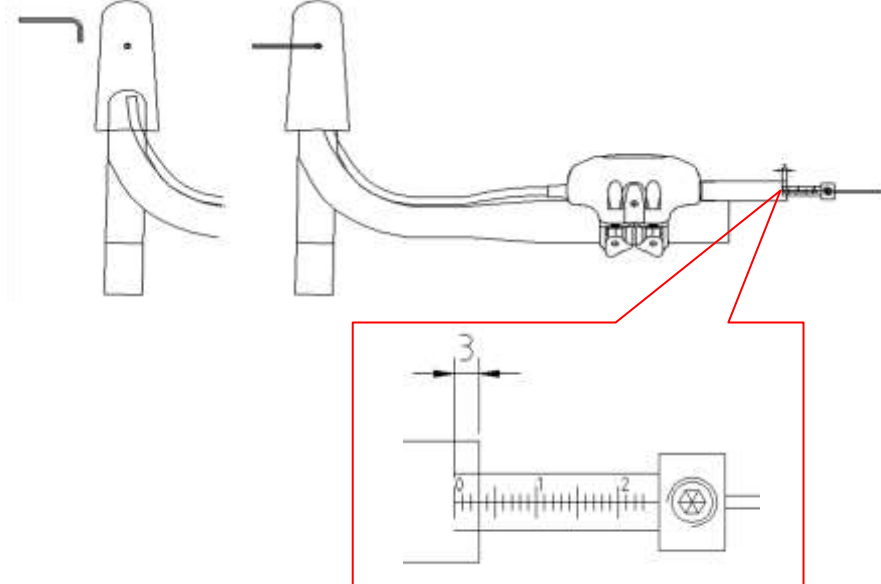
### 最適なレバー比の確認

1. 検査を始める前に、ブレーキレバーが正しくハンドルに固定され、パーテープが巻かれていることを確認してください。
2. インナーケーブルをピンと張った状態で、引き代検査確認工具(A16)に固定します。(アウターケーブルの長さは約 350mm)  
正確に測るためにアウターケーブルとブレーキレバー、及び確認工具の間に隙間がなく、インナーケーブルがしっかりと張られていることを確認してください。
3. レバーがハンドルに接触するまで握り、引き代検査工具の黒い印の部分参照し、許容可能なレバー比を確認します。
4. 許容可能なレバー比の確認  
**使用できない = レバーを引いても黒い印の部分が引き代検査工具本体に全く隠れない。(図中 A)**  
**使用できる = レバーを引くと、黒い印の部分が引き代検査工具本体に隠れる。(図中 B)**

**警告:** 正しいレバー比の確認を行わずにジャイアント CONDUCT セミハイドロリックブレーキシステムを使用すると、制動性能に悪影響を与え、深刻な怪我や死亡を引き起こす可能性があります。

## ブレーキレバーのリーチ調整

ブレーキシステム取り付け後に、ブレーキレバーのリーチ(開き幅)を調整する際は以下の手順に従ってください。

<p>1. インナーケーブルをピンと張った状態で、引き代検査確認工具(A16)を固定します。</p>	
<p>2. 引き代検査工具の目盛りを0に合わせ、マスターシリンダー本体のインナーケーブル固定ボルトをしっかりと締めます。</p>	
<p>★ 注意:レバーのリーチ確認作業をする際は、丸で囲んだ引き代検査工具の窪みにインナーケーブル固定ボルトがしっかりと収まっていることを確認してください</p>	
<p>3. 六角レンチを使用し、ブレーキレバーのリーチを調整します。調整幅は検査工具の目盛りで3mm以内にしてください。 警告：3mm以上の調整は、制動性能に悪影響を与え、深刻な怪我や死亡を引き起こす可能性があります。</p> <p>4. 引き代検査工具を取り外し、余ったケーブルを切断してからインナーキャップを取りつけます。</p>	

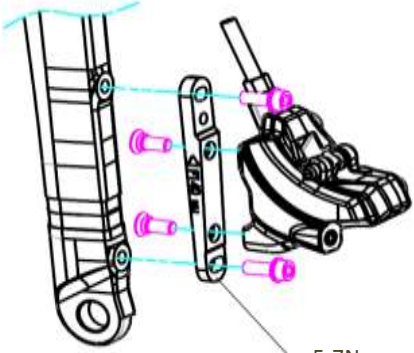
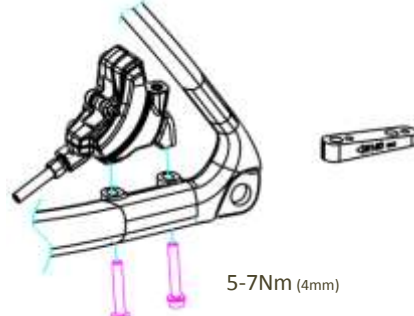
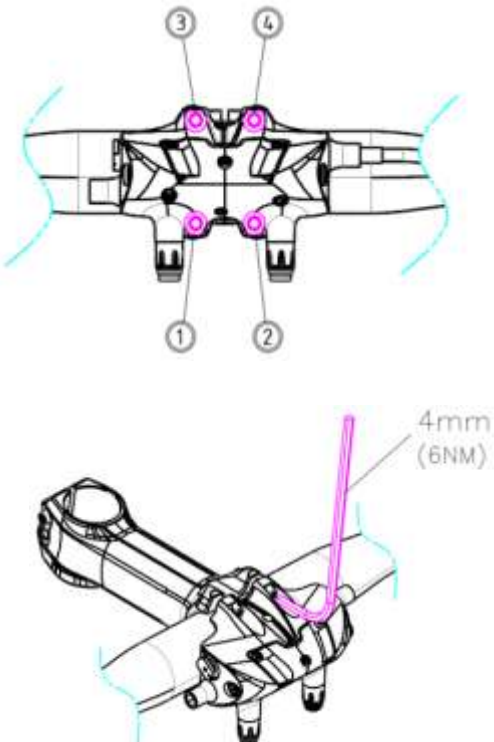


- ブレーキパッド交換を実施する場合は、必ずレバーのリーチ調整ボルトを元に戻してから、作業を実施してください。
- ブリーディングを実施する場合は、必ずレバーのリーチ調整ボルトを元に戻し、ブリードスペーサーを使用して、作業をしてください。


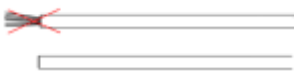

**警告【重要】**

ブレーキインナーケーブルを固定する前に、ブレーキレバーのリーチ調整をしないでください。ブレーキの引き代が足りなくなり危険です。

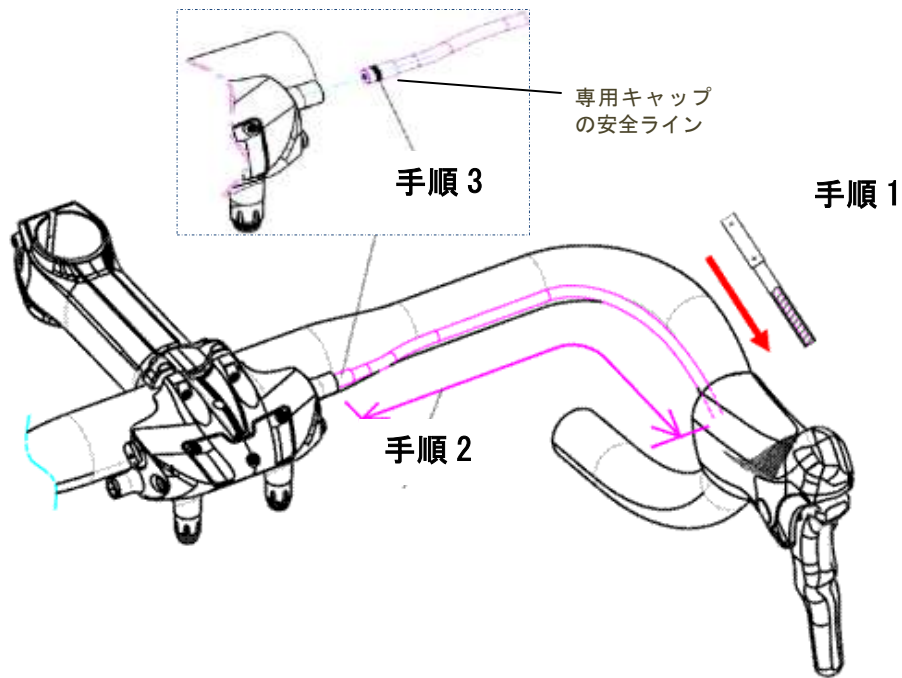
## キャリパーとマスターシリンダー本体の取り付け

Description	
<p>1. フラットマウントまたはポストマウントアダプターを使用する場合、アダプターに刻印されたUPの表示が上向きになるように固定します (締め付けトルク : 5~7Nm)</p> <p>ポストマウントの場合、締め付けトルクは6~8Nm です。</p>	 <p>5-7Nm (4mm)</p>
<p>2. フレーム/フォークのブレーキ台座とキャリパーの位置を合わせます フォークまたはフレームに、固定ボルト2本を使用してキャリパーを取り付けます。この時点では完全には締めつけず、仮止めしておきます。</p>	 <p>5-7Nm (4mm)</p>
<p>3. ブレーキホースの取り付け部が下を向いていることを確認し、マスターシリンダー本体をステムに取り付けます。 4mmの六角レンチを使用し、ステムのハンドルバー固定ボルトを図のような順番で均等に締め付けます(締め付けトルク 6Nm)</p>	 <p>4mm (6Nm)</p>

## ブレーキアウターケーブルの取り付け

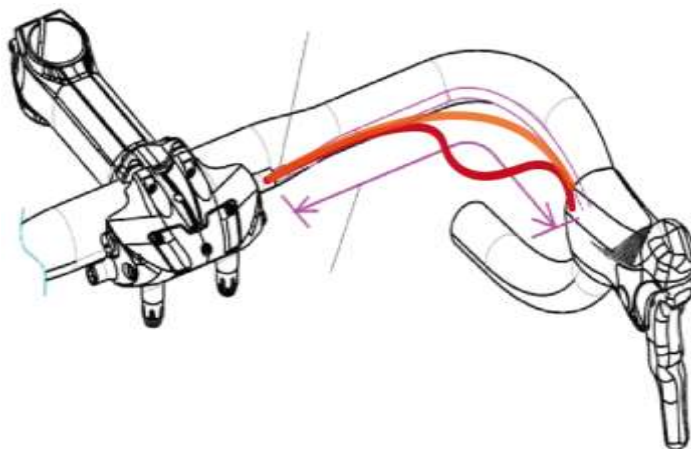
ブレーキアウターケーブル	
 <p>専用キャップ</p> <p>非圧縮ケーブル</p> <p>フレキシブルケーブル</p> <p>本システムのブレーキアウターケーブルは、2種類の異なるケーブルから構成されています。</p> <p>アウターケーブルの長さを調整するときは、非圧縮ケーブルの長さのみを調整し、フレキシブルケーブルの長さは変更しないでください。</p> <p>※ブレーキレバーとマスターシリンダーとの間のブレーキアウターケーブルは、必ず上記仕様のブレーキアウターケーブルを使用してください。</p>	
<p>補足</p>	 <p>非圧縮ケーブル</p> <p>非圧縮ケーブルはケーブル全体の圧縮を抑え、ブレーキタッチの向上および制動性能を高める働きがあります。</p> <p>非圧縮ケーブルを切断するときは、ケーブルの切断面が均等で、ワイヤーがほつれて露出していないことを確認してください。</p>
	 <p>フレキシブルケーブル</p> <p>フレキシブルケーブルは、インナーケーブルとの摩擦を減らしブレーキタッチを向上させるアダプターとして機能します。</p>

## アウターケーブルの接続

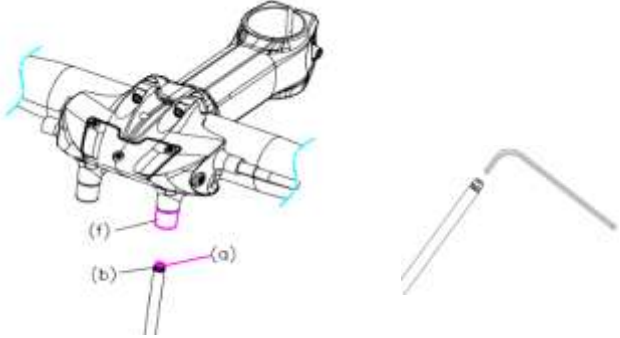
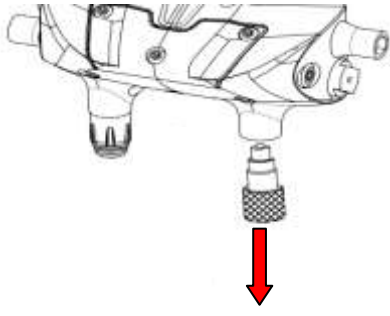
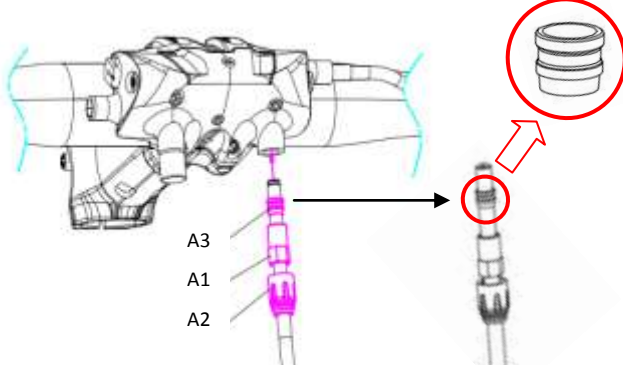
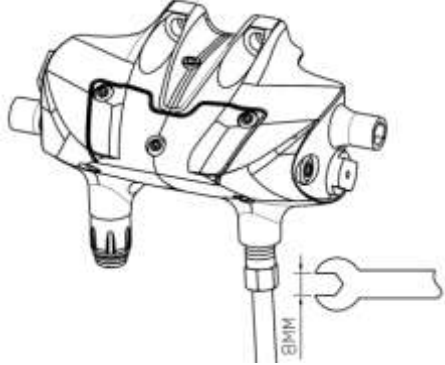
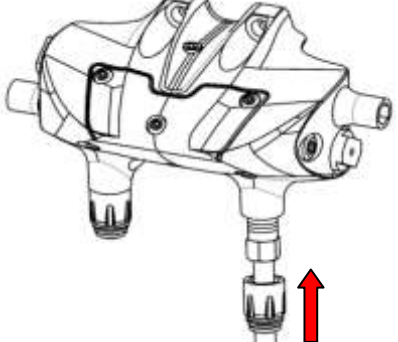
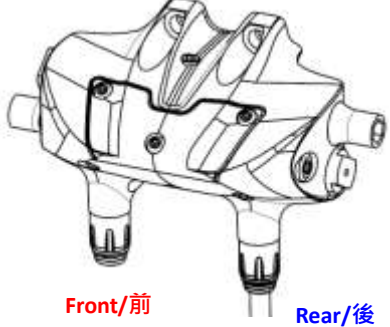


### Notice:

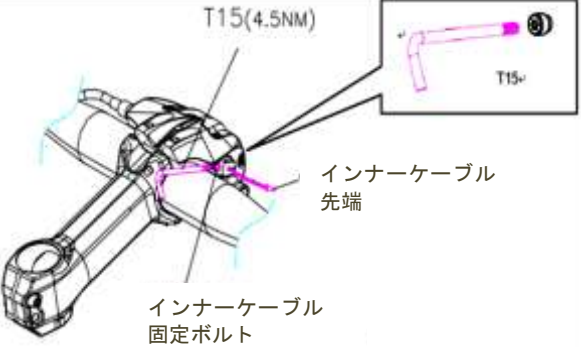
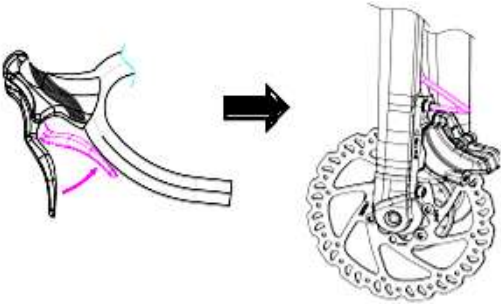
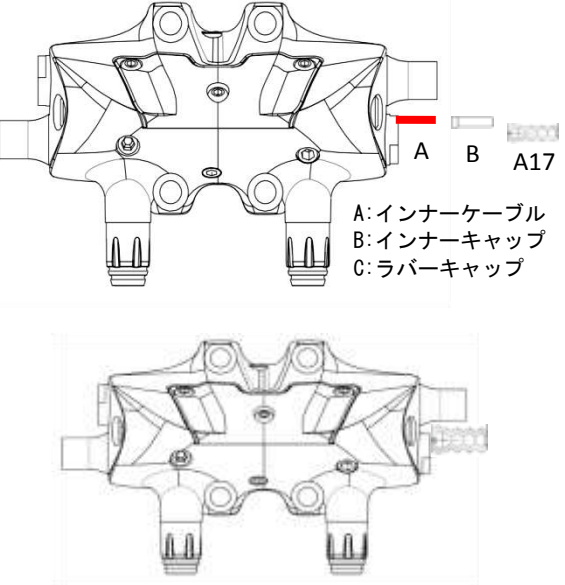
1. ブレーキレバー側に、フレキシブルケーブルを挿入してください。(図中、手順 1)
2. 非圧縮ケーブルの長さが適切かを確認してください。(図中、手順 2)
3. 非圧縮ケーブルの先端がマスターシリンダーに完全に押し込まれ、専用アウターキャップの白いライン(安全マーク)が見えなくなっていることを確認してください。(図中、手順 3)
4. パーテープを巻いた後、非圧縮ケーブル先端の専用アウターキャップの安全マークがマスターシリンダーに押し込まれたままであることを確認してください。
5. 注：アウターケーブルが長すぎるとたるみが生じ、ブレーキタッチと制動性能に悪影響を与えます。(下図の赤いライン)  
警告：アウターケーブルが短すぎると(安全マークが見えている状態)ブレーキ誤作動の原因となり、深刻な怪我や死亡を引き起こす可能性があります。(下図のオレンジのライン)




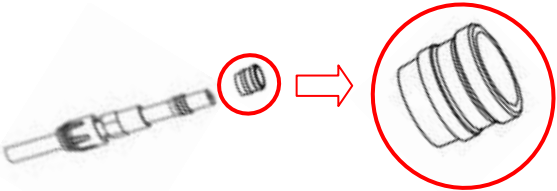

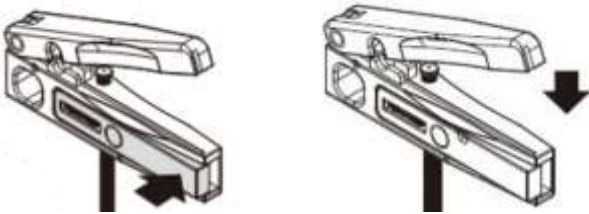
## 油圧ブレーキホースの取り付け

	
<p>1. 2mm の六角レンチを使用しブレーキホースのネジ蓋を取り外します。</p>	<p>2. マスターシリンダーからエンドプラグを取り外します。</p>
	
<p>3. コネクターカバー(A2)、コネクターボルト(A1)、コンプレッションスリーブ(A3)をブレーキホースに通し、コネクターインサート(A4)を取りつけます。正常に機能させるために丸で囲んだコンプレッションスリーブ(A3)の向きを確認してください。</p>	<p>4. 8mm のフレアナットレンチを使用しコネクターボルト(A1) を固定します。(締め付けトルク 7Nm)</p>
	
<p>5. コネクターカバー(A2)を取りつけます。</p>	<p>6. 同じ手順でもう片方のポートにブレーキホースを取りつけます。</p>

## インナーケーブルとマスターシリンダーの接続

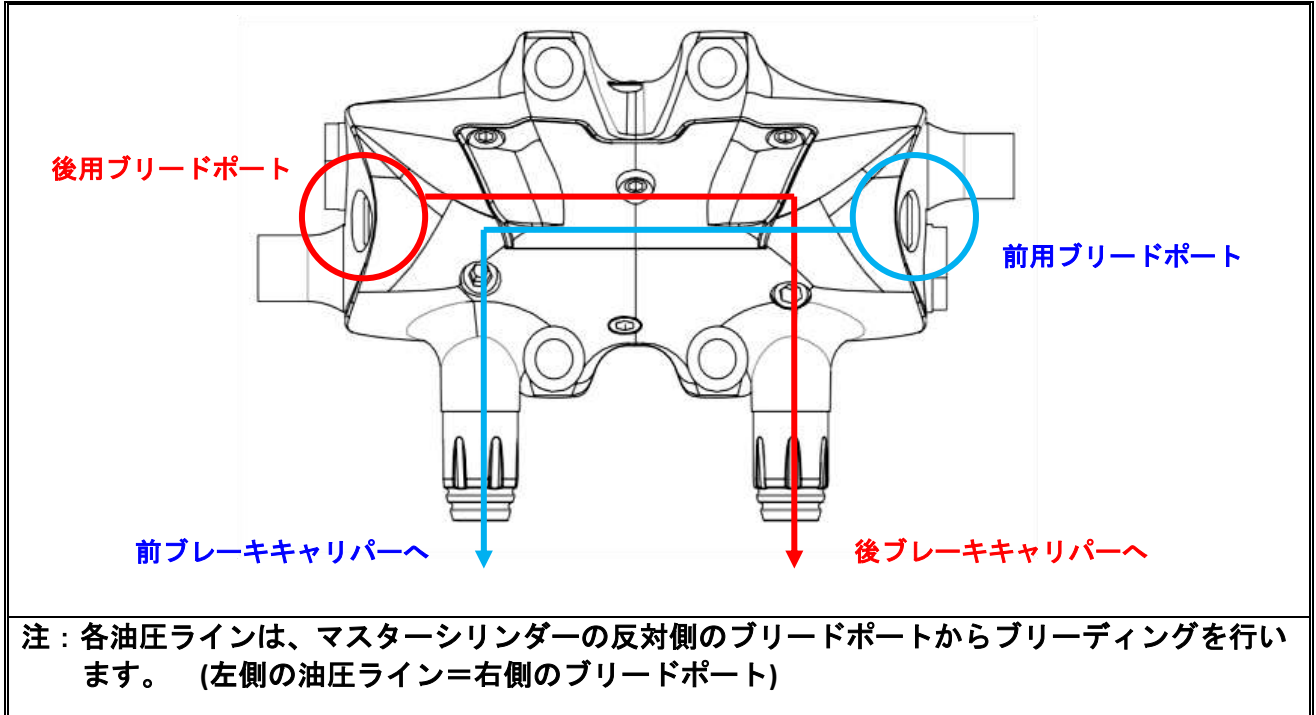
Description	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. T15 のトルクスレンチを使用し、マスターシリンダーのインナーケーブル固定ボルトを緩めます。</li> <li>2. インナーケーブルをレバー、アウターケーブル、およびマスターシリンダーに通します。</li> <li>3. インナーケーブルをピンと張り、インナーケーブル固定ボルトを締め付けます。(締め付けトルク 4.5Nm)</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>4. インナーケーブルがしっかりと固定されていることを確認します。</li> <li>5. ブレーキレバーを約 10 回握り、システム内に空気が残っていないかを確認します。</li> <li>6. 増し締めをして、組み立て作業は完了です。</li> <li>7. キャリパーが左右に動く状態で、しっかりとブレーキレバーを握り、ローター挟みながら 5~7Nm のトルクでキャリパー取り付けボルトを締め付けます (ポストマウントの場合は 6~8Nm)</li> <li>8. ブレーキの効きを確認します。</li> <li>9. バーテープを巻いた後に、すべての機能を再確認してください。</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>10. システムが正常に機能していることを確認できたら、余分なインナーケーブルを 30mm~50mm の長さでカットします。先端がほつれないようにインナーキャップを取り付け、その上からラバーキャップを被せて作業完了です。</li> </ol>	

## 油圧ブレーキホースの長さ調整

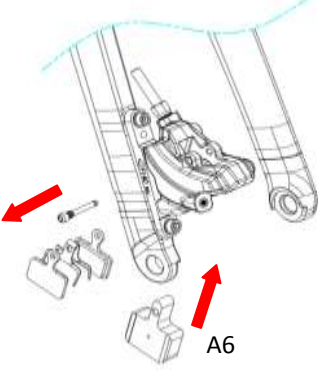
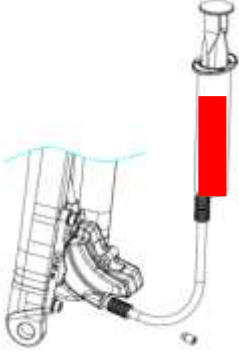
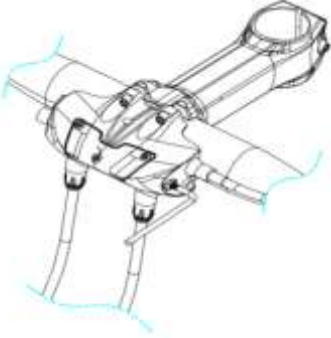
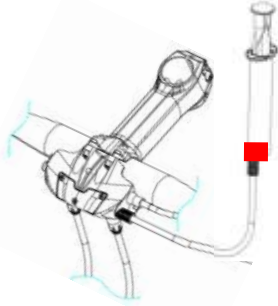
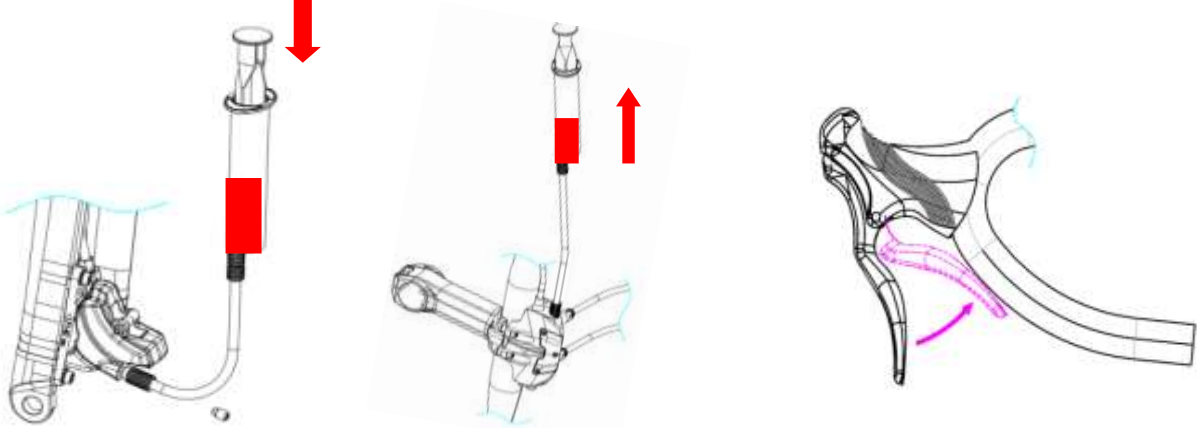
	
<p>1. ホースカッターを使用し、ブレーキホースを切断します。</p>	<p>2. コネクターカバー(A2)、コネクターボルト(A1)、コンプレッションスリーブ(A3)をブレーキホースに通します。正常に機能させるために丸で囲んだコンプレッションスリーブ(A3)の向きを確認してください。</p>
	
<p>3. コネクターインサート(A4)をブレーキホースにセットします</p>	<p>4. ホースカッターを使用し、コネクターインサートをブレーキホースにしっかりと挿入します。</p>

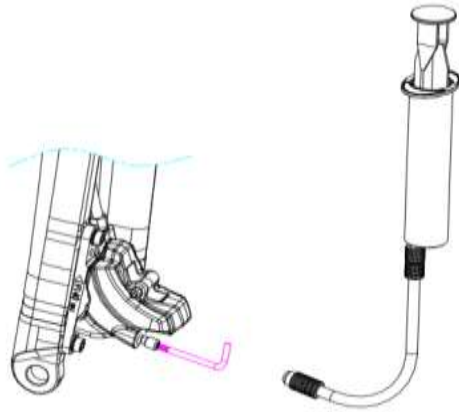
# ブリーディング

## ブリードポート位置の確認

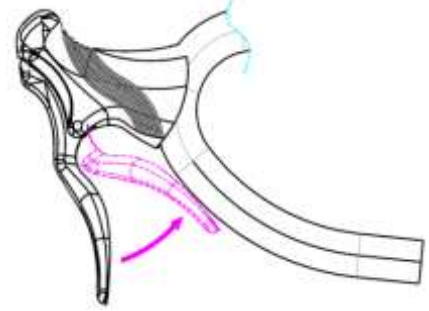




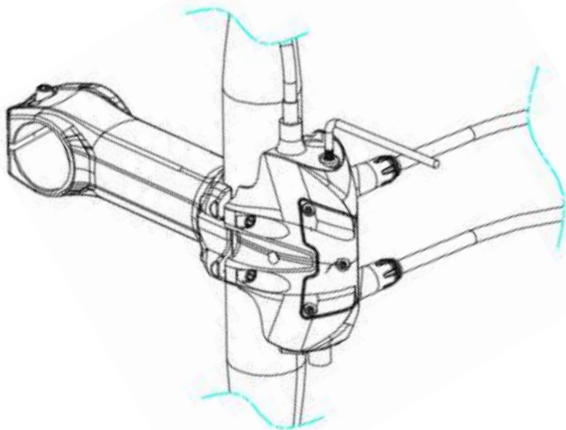
	
<p>1. ブレーキパッドを取り外し、キャリパーにブリードスペーサーを挿入します。</p>	<p>2. キャリパーのブリードポートネジを取り外し、20ccのミネラルオイルを充填したシリンジを取り付けます。</p>
	
<p>3. 適切な側のマスターシリンダーのブリードポートネジを取り外します。</p>	<p>4. マスターシリンダーに5ccのミネラルオイルを充填したシリンジを取り付けます。ブリーディングを始める前に、両方のシリンジが正しく取り付けられていることを再度確認してください。</p>
	
<p>5. キャリパー側のシリンジを押し、ミネラルオイルを注入します。マスターシリンダーを45~90度傾けながら内部の空気を排出していきます。</p> <p>6. ミネラルオイルを注入しながらブレーキレバーを操作することで、より効率よく空気が排出されていきます。</p>	



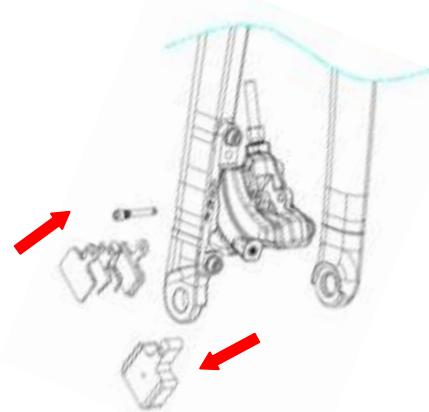
7. キャリパー側のミネラルオイルをすべて注入したら、キャリパー側のシリンジを取り外し、ブリードポートネジを取り付けます。(締め付けトルク 0.8~1.2Nm)



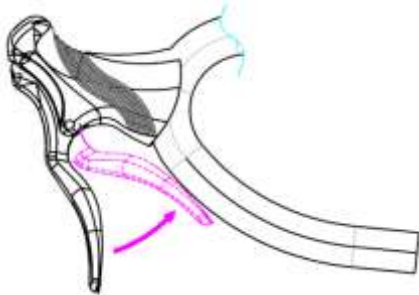
8. マスターシリンダーを 90 度傾けながらブレーキレバーを操作し、内部に残った空気を排出します。  
ブリードポートが上を向く状態で行うと効率的です。



9. ブリーディングが完了したら、ブリードポートが上を向いた状態でマスターシリンダー側のシリンジを取り外し、ブリードポートネジを取り付けます。(締め付けトルク 0.8~1.2Nm)



10. パーツクリーナーなどで表面に付いたオイルを拭きとったら、ブリードスペーサーを取り外し、パッドを取り付けます。

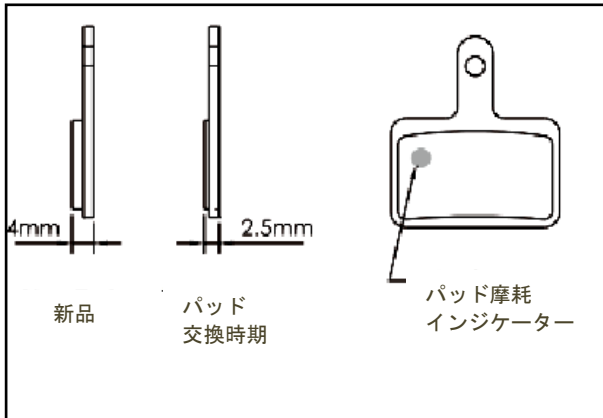


11. ブレーキレバーをしっかりと握り、ブレーキが正しく機能しているかを確認してください。

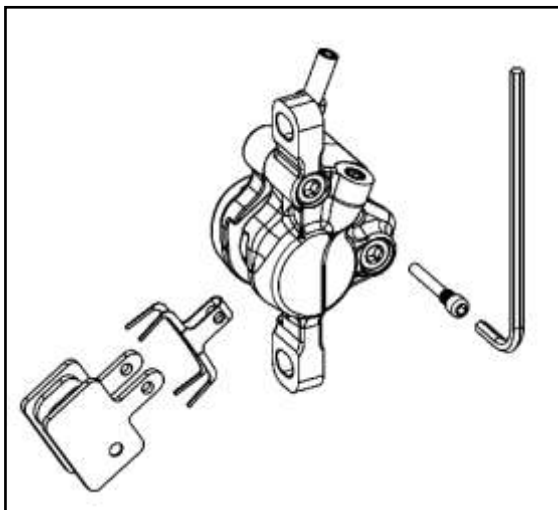
## ブレーキパッドの交換

### 警告【重要】

- ・ ジャイアントが推奨しないブレーキパッドを組み合わせてセミハイドロリックブレーキシステムを使用した場合、保証が無効になります。
- ・ ブレーキパッドが摩耗し、ローターと左右のブレーキパッドの隙間が均等にならない場合は、両方のパッドを交換してください。隙間が不均一な状態で使用することは故障の原因となり、重大な怪我を引き起こす場合があります。



- ・ ブレーキパッド全体の厚さ（パッド部分+バックプレート）が 2.5mm 未満のとき、またはパッドの摩耗インジケータが現れた場合は、パッドを交換する必要があります。



- ・ 3mm 六角レンチを使って、パッド固定ボルトを緩めます。
- ・ パッド固定ボルトから割ピンを抜きます。
- ・ パッド固定ボルトを引き抜き、パッドと押さえバネをキャリパー本体から取り出します。
- ・ 取り外しとは逆の手順で新しいパッドを取り付けます。この時キャリパーのピストンは戻しておきます。
- ・ キャリパーにパッド固定ボルトを挿入し、割ピンを差し込みます。
- ・ 必要に応じてキャリパーの固定位置を調整してください。